

CO・OP

京都の生協

2022/August/No. 106
京都府生活協同組合連合会



「人間科学」から平和を考える

TalkTalk トークとーく

立命館大学大学院人間科学研究科 教授 **村本邦子**さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事 **西島秀向**

対談

TalkTalk トークとーく



「人間科学」から平和を考える

立命館大学大学院人間科学研究科 教授

村本 邦子 さん

京都府生活協同組合連合会 会長理事

西島 秀向 さん

ロシアによるウクライナ侵攻により、メディアからは日々多くの女性や子どもも含め、民間人がたいへんな被害を受けていることが報道されています。阪神淡路大震災で注目された心のケアなど、「一人ひとりの『心』の問題」と思われ

ていることにも、実は社会や時代が大きく影響しています」と、人間科学を研究されている村本邦子教授は話されます。人が人を助けるとはどういうことか、共に生きるとはについてお話を伺いました。

人間科学研究とは

西島 まず先生の研究テーマである、人間科学研究について教えてください。

村本 人間科学研究とは、ひとことで言ってしまうえば、人間を科学しようというものです。自然科学は物をバラバラにして分析しますが、人間をバラバラにして分析しても人間を理解することはできません。統合的な観点から人間を

考えていく必要があります。

私自身は必ずしも人間科学をやるうと思ったわけではなく、たまたま自分のいるところが人間科学研究科という名称になったということなんです。とは言え、中学の時に心理学を学ぼうと思ひ、その理由は人間というものに興味があり、人間についてもっと知りたい

人間的な観点から人間を

西島 先生は、中学生のころから心理学に興味を持たれていたのですか。

村本 子どものときから人間

ではないかもしれないですね。

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

「人間科学」から平和を考える	2
京都府生協連第69回通常総会開催	7
きょうと食の安心・安全フォーラム	8
学習会「食品ロス削減の現状と今後に向けて～会員生協事例交流～」開催	8
親子オンライン食育企画	8
農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会開催	8
適格消費者団体NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN) 総会	9
適格消費者団体・特定適格消費者団体NPO法人消費者	

支援機構関西(KC's) 通常総会・記念シンポジウム	9
第53回京都消費者大会開催	9
きょうざれん「第3回ひとりぼっちをつくらない社会をめざす集い」	9
ピースアクション京都 2022 ピースパレード	10
京都生協と京都府生協連の共催で平和学習会を開催	10
2022年国際協同組合デー 第32回京都集会	11
新型コロナウイルスワクチン3回目職域接種	11
京都府生協連 第40回・第41回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」	12
学習会「防災・BCP(事業継続計画)の基礎を学ぶ」開催	12

学習会「プラスチック資源循環促進法と京都府プラごみ削減実行計画」開催	13
総会だより	
京都労働者福祉協議会第66回定期総会	14
京都食育ネットワーク総会・情報交換会	14
京都府食品産業協会令和4年度定時総会・研修会	14
京都府災害ボランティアセンター総会	14
NPO法人京都地球温暖化防止府民会議 2022年度通常総会	14
京と地球(アース)の共生府民会議総会	14
認定NPO法人気候ネットワーク総会	14
おもな行事のお知らせ	14



立命館大学大学院人間科学研究科 教授
村本邦子さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
西島秀向

個々人の心の問題に、時代や社会の影響が

差別も受けました。そんなことがあって私に「あなたは世の中の弱者の味方になりなさい」と言われて育ちました。そんな母の影響を受け、私は小学校でも中学校でも、クラスでいじめがあったらとにかく割って入るような子どもでした。中学生になっていじめられている男の子を助ける、思春期ですから、ハートマークを書かれたりしました。いじめめる人、いじめられる人を見てみると、そこには関係の悪循環があり、どうにかしてそんな悪循環を断ち切ることはできないのだろうかと思

えていました。それからもう一つ、小さい頃、夜こわい夢を見ることになりました。後で思うと母から聞かされた空襲の記憶だったのかもかもしれません。あるとき、寝る前に「こわい夢を見るかもしれない」と思って寝ると絶対に見ないことに気づきました。こわい夢の存在をすっかり忘れていて、ふっとこわい夢がやってくるのです。その頃、政府の広報で「災害は忘れた頃にやってくる」というCMをやっていた、私は「こわい夢は忘れた頃にやってくる」というポスター

を作って天井に貼って寝ることにしました。そうしたら本当にこわい夢から解放されました。闇から目を背け逃げていると、それが追いかけて来る。直視することが大事なのだと学びました。中学3年のとき、初めて「心理学」という言葉を知り、高校生のときに河合隼雄先生の『ユング心理学入門』に出合っ、一人ひとりの人間のなかに影があり、きちんとそれに向き合わなければ外に投影されていじめや虐殺が起ると知り、まさに「これだ!」と思いました。

西島 それで京都大学に進学されたのですね。

村本 河合先生がいらっしゃる京都大学の教育学部に入りました。大学時代は本をたくさん読み、好きなだけ勉強し、自由で楽しかったのですが、大学院に入るとどうにも世界が狭くて窮屈で、修士を終えると、精神科のクリニックで非常勤として働きはじめまし

た。子ども、思春期、大人、たくさんの人たちと会いまして。心理学では一人ひとりの心の問題と捉えがちですが、時代を共有するたくさんの方のケースをいっぺんに見ると、個々人の背景にある社会や時代の影響があるということに気づいていきました。

その頃は、「登校拒否」が話題になっていたのですが「不登校」という言葉はまだなく、物があふれすぎて、何でも与えられて育ち、自分の欲求がわからなくなっている子が多いのではないかと思いました。お腹が空いて食べるから、「おいしい」と感じるけれど、お腹が空いていないのに次々と食べ物を出されると食欲は湧かない。私たちの親の世代は戦後のモノがな



い時代を経験して、子どもに対する愛情の証を物質に求めました。白いご飯、新しい文房具。戦後の日本社会の復興を物質でやってきたことのツケが心の問題として表れてきていたのではないかと。

西島 高度経済成長時代の発展の弊害ですね。

女性ライフサイクル研究所の活動から、新たな学びへ

村本 その頃、結婚して子どもを2人産んで、子育て仲間ができました。当時は子育て支援なんか必要ないと言われていたのですよ。昔のお母さんたちはたくさんの子どもを育てたけど、家事も全部電化でラクになり、子どもも少ないのに、なんの支援がいるの？というわけです。でも実際はみんな悩んでいた。良いお母さんになりたいという思いにとられすぎて、外から見るとおしゃれで元気に見えるお母さんたちが、無理を重ね、そのしわ寄せが暴言や暴力の形で子どもにいつていたのです。これは「予防臨床心理」が必要だ、と思いました。問題が噴出してから臨床するより、子育て中のお母さんを支援することで、予防できることがあると。それで自宅に仲間を集めて一緒に語り合う会や、勉強会を始めました。これが面白くなって、仕事としてやろうとワンルームを借りたのが「女性ライフサイクル研究所」[※]のはじまりで、1990年のことでした。最初の1年でスタッフが5人になりました。

90年代は女性問題が追い風で、あちこちに女性センターができていって、「女性と仕事」「母親神話」のような話や講演活動などをスタッフと手分けをしてやっていました。カウンセリングやグループを通じて、女性の悩みや思いを共有していたのですが、虐待や性暴力、DVといった問題が見えてきました。でも、当時、そういった概念は日本にはまだなくて、アメリカからの情報を得ながらどう支援できるのか試行錯誤していました。

1995年の阪神淡路大震災からPTSDや「心のケア」が言われるようになり、90年代後半になると、日本でも、海外からゲストを呼んでトラウマ関連のシンポジウムや講演会などが開かれるようになりました。私自身は十年の試行錯誤でつかんできたものを整理し、まとめたいと思うようになりました。この分野では、ある意味、パイオニアとしてやってきたので、日本の大学でそれを学べるころはありませんでした。

西島 最先端の分野だからこそ、日本では教えてくれるところがないのですね。

村本 留学したかったのですが、子どもはまだ小さいし、どうしようか悩んでいたから、アメリカのユニオン・インスティテュートという、distance learning（ディスタンスラーニング）をやっている大学院を知りました。基本的に日本で勉強しながら、アメリカに行ったり来たりするのです。そこで素晴らしい教育を受け、博士論文を書いてPh.D. (Doctor of Philosophy 博士号)を取りました。学習者中心主義、学

※「女性ライフサイクル研究所」
<https://www.f-lifecycle.com/about/>
臨床心理士による女性たちのためのカウンセリングの場（大阪）。1990年10月、「社会にひらかれた心理臨床」を志して女性ライフサイクル研究所が設立されました。設立以来、女性と子どもの視点にたち個人臨床からコミュニティ支援まで取り組んできました。研究所では、女性や子どもが安全に、尊厳をもって生きていける社会を目指して貢献します。（HPより抜粋）

際的視点、社会貢献という3つの哲学を掲げ、多様な人々の支援を受けながら主体的な学びを行い、多領域のPh.D候補生たちと宿泊型のセミナーで議論しながら、象牙の塔（大学の研究室などの閉鎖社会）に籠るのではなく、社会貢献できる人材になるという徹底した教育を受けました。**西島** なるほど。そういった方法で新たな学びを実現されたわけですね。

立命館大学での東日本家族応援プロジェクト

村本 ユニオン・インスティテュートを卒業した2001年に、たまたま立命館大学の応用人間科学研究科がスタートし、教えるようになりました。自分が受けた教育を日本でも



実現できたらと思いました。

立命館でやった大きな仕事のひとつは、「東日本・家族応援プロジェクト」だと思います。阪神淡路大震災のとき、1週間後に神戸に入り、毎週ボランティアに通いましたが半年で仕事を終えると、その後は関わらなくなりました。あの時、災害の現場でカウンセリングの形でボランティアは現場にフィットしないことを学びました。避難所で子ども達と遊ぶ大学生中心のボランティアのなかに入ったのが一番よかったのです。子育て支援やDVシエルトーでの親子支援も、悩みを聞くというより、一緒に何かするなかで必要な事案が出てくれば対応するというのが一番効果的でした。

に來られていた方に、「私がこんなふう生きていたことを先生だけは忘れないで知って欲しい」と言われたことがあります。誰一人自分のことを知らないということほどむごいことがあるでしょうか。たった一人でも自分のことを理解しようとしてくれている人がいるということは力になります。専門家にできることははしれているけれども、それならできると思いました。ウィットネス（目撃者）ですね。こうして被災と復興の証人になることを目指し、東北4県、各地域で楽しいプログラムを一緒にやって交流しながら10年、コロナがあつて結局11年続けました。

村本 それで東日本のときには、「細く長く、10年間、東北に通います。地域の人たちがどんなふう被災を、生き抜いたか学ばせて頂き、その証人になります」と。理不尽な経験を重ねカウンセリング



代々の驚くべき智慧^{ちえ}がたくさんありました。民話やお祭り、死者と交流するチャンネルなど。たとえば、ふたつの異なる世界が交じり合う境界領域は汽水域^{きすいいき}と呼ばれますが、青森のイタコや口寄せなど、東北には生者と死者が出会い対話できる空間があります。岩手県に「風の電話」という死者と話せる電話ボックスがあつて有名になりましたが、土地の文化にフィットしたうまい装置だと思えます。

最新本『災厄を生きる物語』



と土地の力 東日本大震災からコロナ禍まで』では、こうしました。自分たちが都会から行って「助けてあげます」ではなく、その場所に受け入れていたでいて、人々がどんなふうに苦難を生き抜いている

のか、土着の知^ちに学ばせてもらうという姿勢で入りました。

西島 東日本大震災では生協からも各地へ支援に行ったりするのですが、参加した人は、「支援と思っていだけれど、逆に心を癒されるというか、学ぶことが多かった」と言っていました。

※智慧 物事をありのままに把握し、真理を見極める力。
※土着の知 特定の地域における固有の知恵。

ロシアのウクライナ侵攻について、戦争の影

去年、10年間の各地のエピソードを『周辺からの記憶 三・一一の証人となった十年』という本にまとめました。東北には災厄を生き抜く先祖

西島 いまロシアがウクライナに侵攻して、たくさんの方が亡くなられ、女性や子どもが被害を受けていますが、何か思われることはありませんか？

家族との親密な関係、やわらかな触れ合いはできなかつたのではないかと。その歪みが悪い形で出ると家庭内での暴力になる。別の形は、家族に情緒的に近づかないようにする。被害も加害も含め、自分の過去に目を向けないように死ぬまでがむしろに働き続けようとした男性たちが焼野原になった日本の戦後の経済復興を

村本 長く虐待、DV、性暴力などの問題に関わってきたが、家族の闇の背後に日本社会の「戦争の影」のようなものを感じてきました。

戦地で非人間的な経験を重ねた男性たちは、国に戻り、結婚し、子どもが生まれても

戦地で非人間的な経験を重ねた男性たちは、国に戻り、結婚し、子どもが生まれても





支えた。加害兵の証言のなかに「自分の子どもが産まれたとき、子どもの目が見られなかった。戦地であやめた子どもの瞳が焼きついていて」と語っておられる人がいました。闇の部分にも目を向けなければ、闇が襲ってくる。

そんなトラウマが世代間連鎖することもあります。対処されなかったものが次の世代に受け継がれてしまう。戦争が1日でも長く続けばそれだけ心に傷を受ける人が増え、亡くなった人の家族や知人たちの恨みとか怒りがまたさらなる火種になっていきます。修復がどんなに大変なことか想像できるだけに、戦争が一

日でも早く終わることを心から願います。

西島 私たちの考えるべきこと、すべきことは何がありま

すでしょうか。

村本 それぞれの仕方に関心を寄せ続けることだと思いま

す。最近知ってなるほどなど

関心したのは、若い人たちが

オンラインゲームで海外の人

たちとやりとりがあつて、ウ

クライナにもゲーム仲間がい

て、ネット上で会話したり、

SNSのフォローをしたりし

てる（この頃は翻訳ツールも

発達していますね）。大きな

事は何もできなくても、関心

を持って一日も早い平和を

願っていることを表現するこ

ともできます。ウクライナや

ロシアの歴史や芸術をあらた

めて学ぶとか、小さな金額で

も寄付をすることができ

最近ではクラウドファンデ

ィングなどで支援団体に寄付す

る方法もありますから、なる

べくなら自分の望む形の支援

に活かしてくれそうな団体を

調べて選ぶといいですね。近

くに避難者がきたり、ウクラ

イナやロシアから来た人々が

いたら声をかける、できるお

手伝いをする。周りの人たち

と語り合うことも大事ですね。

ウクライナだけでなく、コン

ゴ、イエメン、ミャンマーな

ど世界のいろいろなところで

戦争が起こっていること、日

本が移民や外国人に対してこ

れまでどんな態度を取ってき

たのかなど、視野を広げるこ

とも大事ですね。そして、身

近なところから平和を作る努

力をしましょう。逃げないで

ちゃんと問題と向き合うこと、

話し合いで解決すること、自

分が困ったら助けを求め、

困っている人がいれば声をか

ける。世界は複雑だけど、大

切なことはシンプルなのでは

ないでしょうか。

生協コンシェルジュ

西島 最後に生協について、

生協は人と人とのつながりを

大切にしているのですが、コ

ロナでなかなか人と人の接触を

持てなくなっています。何か

いいアドバイスなどあります

でしょうか？

村本 私自身も子育て中に生

協を始めました。いまは個配

で玄関に置いてくれるけれど、

その頃は共同購入で、同じマ

ンションに住んでいる人、子

育て中の家族と、一緒にお

しゃべりをしながら品物の仕

分けをした。あのシステムは

すごくよかったですね。コロ

ナで、私たちはZoomなど

のオンラインシステムで、新

しい人と人とのつながり方を

得たけれど、やはりその場所

と一緒に身体を置いて共に過

ごすことはすごく重要なこと

だと思います。東北のプロ

ジェクトでとにかく現地に

行ってみて、直接人々と出会

うことがどんなに大きな力に

なるかを学びました。これか

らも生協には人と人をつなげ

る存在として期待しています。

西島 期待におこたえでき

よう、がんばります。ありが

とうございました。



プロフィール
村本邦子 Ph.D. (むらもと・くにこ)

立命館大学大学院人間科学研究科教授。臨床心理士。
思春期外来の精神科クリニックで心理臨床に携わった後、1990年、女性ライフサイクル研究所を設立、2014年3月まで所長を務める（現在は顧問）。2001年4月より立命館大学教授。2002年、特定非営利活動法人FLC安心とつながりのコミュニティづくりネットワークを設立、代表理事。
『暴力被害と女性 理解・脱出・回復』（昭和堂）、『援助者のための女性学入門』（三学出版）、『臨地の対人援助学 東日本大震災と復興の物語』（共編著、晃洋書房）、『周辺からの記憶 三――証人となった十年』（国書刊行会）、『災厄を生きる一物語と土地の力 東日本大震災からコロナ禍まで』（編著、国書刊行会）ほか著書多数。

京都市生協連 第69回通常総会開催

全議案を満場一致で可決、役員20人を選任

6月13日（月）、午後1時

30分からコープ御所南ビル4

階会議室で開催。新型コロナ

ウイルス感染症対策を十分に

実施した上で、代議員と理事、

監事など12人での開催となり

ました。書面議決代議員には

オンラインでライブ視聴がで

きるようにしました。

今総会の代議員数は45人

で、当日の出席は本人出席3

人、書面出席42人でした。

西島秀向会長理事が開会の

あいさつをのべました。

九鬼隆一事務局長が、京都

府知事や京都労働者福祉協

会、国会議員、各関係団体、

各生協からいただいた85通の

祝辞や祝電・メッセージの一

部をご紹介します。

提案されたすべての議案が、

満場一致で可決されました。

員外理事をふくむ17人の理

事と3人の監事が選任されま

した。2022年度の役員体

制は左記のとおりです。

2022年度役員体制 6月27日現在(敬称略)

*印は新任

代表理事・会長理事	西島 秀 向 (員外)
副会長理事	畑 忠 男 (京都生活協同組合理事長)
副会長理事	國見 伸 行 (京大大学生生活協同組合専務理事)
代表理事・専務理事	高取 淳 (員外)
常任理事	本多 浩 (京都府庁生活協同組合専務理事)
常任理事	風折 昌 樹* (立命館生活協同組合専務理事)
理 事	上西 良 太 (乙訓医療生活協同組合専務理事)
理 事	浦田 千 恵* (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ理事)
理 事	奥谷 和 隆* (京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事)
理 事	川村 幸 子 (京都生活協同組合副理事長)
理 事	坂本 真 有美 (生活協同組合コープ自然派京都理事長)
理 事	清水 泰 治 (京都医療生活協同組合専務理事)
理 事	杉江 勇 亮* (京都工業繊維大学生生活協同組合専務理事)
理 事	高倉 通 孝 (京都生活協同組合専務理事)
理 事	堂本 吉 次 (やましろ健康医療生活協同組合専務理事)
理 事	蛭田 美 幸* (全京都勤労者共済生活協同組合専務理事)
理 事	吉田 不二男* (京都市民共済生活協同組合専務理事)
特定監事	長 誠一郎 (乙訓医療生活協同組合監事)
監 事	河野 直 (京都生活協同組合常勤監事)
監 事	鯉迫 裕 子* (同志社生活協同組合専務理事)
(事務局)	
事務局長	九 鬼 隆 一
事務局担当	川 端 浩 子
事務局担当	岡 本 朋 子

今回退任された役員のみなさん

6月13日現在(敬称略)

理事	谷口 一 宏 (龍谷大学生生活協同組合前専務理事)
理事	石澤 春 彦 (京都高齢者生活協同組合くらしコープ専務理事)
理事	木下 美紀子 (生活協同組合生活クラブ京都エル・コープ前常任理事)
理事	下 遠 秀 樹 (京都市民共済生活協同組合専務理事)
理事	友 金 一 (京都橘学園生活協同組合専務理事)
監事	杉江 勇 亮 (京都教育大学生生活協同組合前専務理事)



立命館生協・中森理恵代議員を議長に選出



京都府生協連・西島秀向会長理事

祝辞・祝電・メッセージをお寄せいただいた方がた

(敬称略・順不同・6月13日現在)

衆議院議員	泉 ケンタ	衆議院議員	北 神 圭 朗
衆議院議員	こくた 恵二	衆議院議員	田 中 英 之
衆議院議員	本 田 太 郎	衆議院議員	前 原 誠 司
衆議院議員	山 井 和 則	参議院議員	井 上 さ と し
参議院議員	倉 林 明 子	参議院議員	福 山 哲 郎
京都府知事	西 脇 隆 俊	京都市長	門 川 大 作
京都府議会議長	菅 谷 寛 志	京都府社会福祉協議会会長	小 畑 英 明
京都市社会福祉協議会会長	小 石 玖 三 主	京都商工会議所会頭	塚 本 能 交
京都府農業協同組合中央会会長	中 川 泰 宏	京都府漁業協同組合代表理事組合長	西 川 順 之 輔
京都府森林組合連合会代表理事会長	青 合 幹 夫	近畿労働金庫理事長	石 村 龍 治
京都労働者福祉協議会会長	廣 岡 和 晃		

きょうと食の安心・安全フォーラム



京都府生協連・川村幸子理事

しました。

2月1日(火)、オンラインで「京の食知って広がる笑顔と安心」をテーマに開催されました。

主催はきょうと食の安心・安全フォーラム実行委員会(京都府・一般社団法人京都府食品産業協会・京都鶏卵・鶏肉安全推進協議会・NPO法人コンシューマーズ京都・京都府生協連)。

食の安心・安全に関する京都府などの取組みを紹介するとともに、食品関連事業者と消費者との交流を図り、信頼づくりを推進することを目的に開催され、今回で15回目となりました。府民65人が参加

京都府と食品関連事業者や生産者による安心・安全の取組みの報告を受け、意見交換がおこなわれました。参加者からは「行政・企業・生産者から」「さまざまな視点や立場の方の意見が聞けたのがよかったです」などの感想がありました。

京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこないました。

学習会「食品ロス削減の現状と今後にむけて」会員生協事例交流」開催

2月8日(火)、オンラインで開催。役員等26人が参加しました。西島秀向会長理事が開会のあいさつをおこないました。京都府府民環境部・循環型社会推進課・落合美月主事から「京都府の食品ロス削減にむけた取組みについて」の報告があり、会員生協から「京都生協食品ロス削減

の取組み」京都生協組織運営部・宮本忍CSR担当リーダー、「同志社生協・食品ロス対策の取組み」同志社生協・堂免裕子専務理事から報告があり、意見交換しました。

親子オンライン食育企画

3月26日(土)、オンラインで、京野菜生産者との交流や畑で収穫された野菜を使用した親子クッキングを通じて、食に対する関心を深める機会とすることを目的に開催されました。主催は京都生協、京都府生協連、京都府協同組合連絡協議会が共催しました。

親子35組、約100人が参加しました。京都市左京区大原の、株式会社ヴィレッジトラストつくだ農園・渡辺雄人代表取締役を講師に招き、農園の紹介動画を視聴。事前に参加者にお届けしていた野菜の紹介をいただきながら意見交換のあと、京野菜クイズや、オンラインから流れる講師の画像を見ながら一緒に調理しました。人參(西洋人參・金

時人參・紫人參)の味比べ、フライパンを使って焼き菜の花、人參のゆで汁で野菜スープも作りました。

参加者からは「普段は人參の違いを特に考えていなかったのが新しい発見があったので嬉しいです」「簡単クッキング、子ども向けのクイズなどもあって親子で楽しめました」「普段、自分からは野菜にあまり手をつけなくて、息子が、菜の花をまるごとパクリ、ゆでた人參もほとんど食べてしまいました。それだけ新鮮でおいしかったのだと思います」などの感想がありました。

最後に京都府生協連・川村幸子理事が閉会のあいさつをおこないました。



人參の食べ比べ

農林水産省近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会開催

3月1日(火)、オンラインで開催しました。この意見交換会は、近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会で、1998年から開催しており、今年で23回目となります。近畿農政局から大坪正人局長はじめ3人の方が、生協から近畿地区5府県の生協連などから、役員21人が参加。

開会にあたり、近畿農政局の大坪正人局長と、近畿地区生協府県連を代表して京都府生協連の西島秀向会長理事があいさつをのべました。大坪正人局長から「みどりの食料システム戦略について」の情報提供があり、生協からは、「ならこぼにおける地産地消の取組みと今後の課題(奈良)」、「組合員・地域と進める食品ロス半減(兵庫)」、「生産者と消費者である組合員と交流し、産地を守る活動(和歌山)」から報告があり、意見交換しました。



KCCN・増田朋記事務局長（弁護士）

適格消費者団体NPO法人 京都消費者契約ネットワーク （KCCN）総会

5月30日（月）、京都御池総合法律事務所会議室で開催されました。

書面による議決運営を中心に、提案された全議案が可決されました。

総会後に山田茂樹司法書士を講師にお迎えし記念講演（オンライン）を開催。「平成28年以降の消費者契約法改正事項を実際に活用するためには？」と題して、同ネットワーク・増田朋記事務局長（弁護士）とデイスカッション形式でおこなわれました。

2016年から三度にわたり改正がおこなわれた消費者契約法について増田事務局長より紹介のあと、実際にあった3つの事案について、改正法を使いどのようにして不正

な契約を取り消しできるのかを検証しました。

同ネットワーク・野々山宏理事長（弁護士）が、課題はあるが工夫しながら消費者の権利を勝ち取っていきたいとあいさつされ、閉会しました。35人がオンラインで参加しました。

京都府生協連からは、西島秀向会長理事が理事をつとめています。

適格消費者団体・特定適格消費者団体NPO法人消費者支援機構関西（KCS）通常総会・記念シンポジウム

6月25日（土）、マイドームおおさかで開催されました。

会場とオンラインを併用し、書面による議決運営を中心に開催されました。提案されたすべての議案（2021年度事業報告・決算、2022年度事業計画・予算、役員選任）が可決承認されました。

総会終了後は、記念シンポジウム「KCSの活動から見えてきた被害回復請求の限界と展望」が開催され、この間の消費者を守る法律の改正内容を振り返り、適格消費者団体が求めた改正内容と改正法の相違から今後の課題を考えました。

京都府生協連からは高取淳専務理事に代わり、西島秀向会長理事を理事として派出し、承認されました。

第53回京都消費者大会開催

5月29日（日）、京都経済センターとオンラインを併用して開催され、45人の参加がありました。主催はNPO法人コンシューマーズ京都、京都府、京都市。

テーマは「若者の未来を考える！18歳から狙われる消費者被害」。

京都産業大学法学部・高島英弘教授（NPO法人京都消費者契約ネットワーク理事）より「18歳成年時代に必要なことー消費者法教育の意義と展望ー」と題して基調講演の

あと、森順美氏（NPO法人京都消費者契約ネットワーク理事、消費生活相談員）と池垣陽子氏（埼玉県立蓮田松韻高等学校教諭）から報告がありました。パネルディスカッションでは、高島英弘氏がコーディネーターを、パネラーは森順美氏、池垣陽子氏のほか、大学生2人、保護者代表として大槻知美氏（京都生協理事）がつとめられ、こんごの課題について意見交換しました。

きょうざれん「第3回ひとりぼっちをつくらない社会をめざす集い」

2月19日（土）ひとりぼっちをつくらない社会をめざす京都の会が主催、京都府・京都社会福祉協議会、京都新聞社会福祉事業団の後援で開催されました。開催はオンラインでおこなわれ、全国から330人の参加がありました。

集いは、新型コロナウィルス感染症で発生したさまざまな「生活のしづらさ」の実態と、支援の取組みについて交流し、それらの対応を通じて浮き彫りになった社会保障施策の課題などを考える場として開催されました。

基調講演では、佛教大学・岡崎祐司教授から「新型コロナウイルスウィルス感染症で浮彫になった我が国の社会保障の課題」をテーマに講演がありました。コロナ禍により、以前から存在した社会の歪みがいよいよ深刻になったこと、そして今、最も必要なことは社会保障制度の充実であると話されました。

報告がありました。

大谷大学・中野加奈子准教授からは、「生活困窮者の実態と支援」について、大学生協事業連合関西北陸地区組織運営部基幹運営課・末廣恭雄氏からは、「困窮する学生生活への支援と課題」（社福）宇治東福祉会宇治作業所・山本順子施設長からは、「障害分野で起きたこと政策的課題」をテーマに報告がありました。

コーディネーターは、尾藤廣喜代表（弁護士）がつとめられ、全体のまとめが岡崎祐司教授からありました。

閉会あいさつが、京都生協・川村幸子副理事長からありました。

※ひとりぼっちをつくらない社会をめざす京都の会

尾藤廣喜代表。きょうざれん京都支部を中心に、京都生協や京都中小企業家同友会などが参加。京都府生協連も参加しています。



シンポジウムでは多くの質問が出ました。尾藤廣喜代表（右上）、大学生協事業連合・末廣恭雄氏（下）

ピースアクション京都 2022

6月21日(火)

ピースパレード



三条大橋を京都府生協連の役職員が先頭をきって行進

6月21日(火)「2022年ピースパレード」が取り組まれました。「平和と核廃絶の願いをもちより、広島・長崎での世界大会につながるよ」との趣旨ではじまった京都の生協のピースパレードは今年で38回目をむかえました。

新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、昨年に続いて京都府生協連の役職員3人が生協を代表して参加しました。小雨が降る中でしたが、150人の参加がありました。ゴールとなった京都市役所前では、まとめ集会がおこなわれ、生協を代表して京都府生協連・西島秀向会長理事があいさつをのべました。

パレードのあと、京都府生協連のよびかけで「ロシアのウクライナ侵攻により、世界中で抗議の声がひろがっている。平和を願う想いやメッセージを出しあい交流を深めること」を目的として、オンラインピース交歓会を開催しました。

府内行進者や生協関係者など、30人が参加しました。

京都生協と京都府生協連の共催で平和学習会を開催

大学生とのトークセッション「いま、平和について考えよう」

7月2日(土)、オンラインで開催。長崎大学核兵器廃絶研究センター・林田光弘特任研究員が「核兵器廃絶を願って、私たちにできること」をテーマに話題提供のあと、大学生とのトークセッションがあり、交流しました。44人が参加しました。

「核兵器禁止条約って何? その最前線」

7月5日(火)、京都テルサを会場に、オンラインを併用して開催。講師の、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)・川崎哲国際運営委員が、核兵器の問題や、核兵器禁止条約第1回締約国会議の最新情報について講演されました。118人が参加しました。



摂南大学農学部・北川太一教授

7月6日(水)、京都J Aビルで開催され、J A、J F、森林組合、生協から会場35人、オンライン68人の計103人が参加しました。国際協同組合デーは毎年7月第1土曜日を全世界の協同組合員が心をひとつにして協同組合の発展を願い、平和とよりよい生活を築くために、運動の前進を誓い合う日として、1922年に制定されました。京都では毎年、京都府協同組合連絡協議会(J A京都中央会・京都府森林組合連合会・J F京都・京都府生協連)の主催で

2022年国際協同組合デー 第32回京都集会

「協同組合間連携をどうすすめるか」をテーマに開催

記念集会を実施しています。

司会は京都府森林組合連合会経営企画課・住和宏課長が担当し、J A京都中央会・中川泰宏会長より開会あいさつがありました。

「協同組合間協同と持続可能な未来のために」と題して、摂南大学農学部・北川太一教授にご講演をいただきました。

参加者からは「過去をふまえた今日の課題、取り組むべきことについて頭の整理ができた」「困難な時代だからこそ、協同組合の強み、人と人とのつながりを活かすことが重要だとわかった」など多くの感想がよせられました。各協同組合からは「協同組合の担い手が語る」と題した活動報告がありました。

閉会にあたり、J F京都・西川順之輔代表理事組合長が「厳しい状況だが、この難局を協同組合間連携で乗り越えましょう」と結びました。

協同組合の担い手が語る

あつまれ！醍醐ええもんマルシェ〜続けることの意味〜

J A京都市 醍醐支店支店長

鶴田美和



サワラひき縄漁業の経営安定化を目指して

京都府漁業協同組合宮津支所丹後曳縄会

改發匡恒



福知山地方森林組合の活動
福知山地方森林組合森林整備担当・技師

鍋倉慎平



コロナ禍に対応した生産者とのオンライン交流

京都生活協同組合 地産地消推進担当

廣池孝之



新型コロナウイルスワクチン 3回目職域接種

京都府協同組合連絡協議会(J A京都中央会・京都府森林組合連合会・J F京都・京都府生協連)の協同組合間連携により、J A京都中央会の呼びかけで、生協役職員・関係団体役員やその家族を対象としたワクチン接種の機会をいただきました。

生協からは、5月15日(日)に122人、6月4日(土)に156人の計278人が3回目の接種を完了しました。



3回目のワクチン接種

「に発展させる協議会」(略称:KSK)

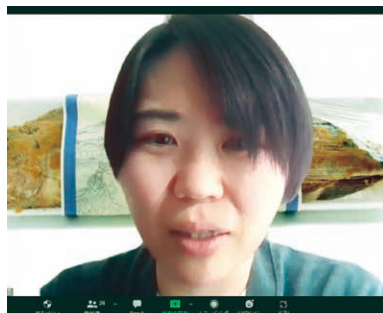
のあらたな価値の発見・創造の場として～

第40回

テーマ

「2021年度全国生協組合員意識調査～調査結果から見えるもの～」

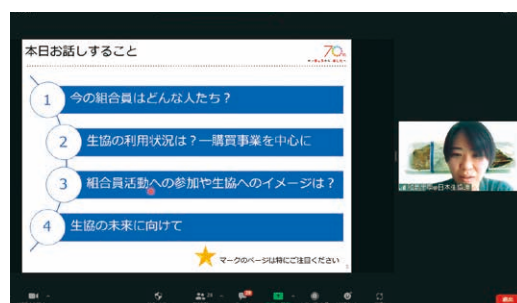
日本生協連では3年ごとに「全国生協組合員意識調査」を実施しています。今回の調査結果には、コロナ禍の影響も反映されており、収入は1/4の世帯で減少、個配の利用は過去最多、利用年齢層の変化等が報告されています。生協



日本生協連政策企画室・和氣未奈氏

1月18日(火)、オンラインとコップ御所南会議室で開催し、役員30人が参加しました。
西島秀向会長理事が開会のあいさつをおこない、畑忠男副会長理事がコーディネーターをつとめました。
今回は日本生協連政策企画室・和氣未奈氏から、2021年度全国生協組合員意識調査について報告があり、意見交換をして内容を深めました。

の使命である組合員の期待と願いに応える事業の活動を考えるにあたり、最新の組合員の意識の実態を学び、今後に向けて考えあうことを目的に開催しました。
「組合員の今を知り、生協の未来を考える」をテーマに、日本生協連政策企画室・和氣未奈氏が報告。今の組合員の平均年齢が過去最高になり、高齢化がすすんでいること、高齢化はすすんでいるが、就業率は2012年度調査から上昇していること、コロナ禍で個配の利用率が店舗を逆転したことなどが報告され、生協の未来に向けての課題は、若年層の加入・利用促進が急



手を振って終了しました

務であり、組合員のくらしに寄り添う提案のためのデータ基盤構築、多様な組合員が運営に参加しやすくなるような、コミュニケーションの再設計などをあげられました。
参加者からは「ネットで注文するとき、なかなか自分のほしい商品にたどりつかないという組合員の声をくみあげ、工夫をして生協のよさを広報していきたい」「簡単・便利・わかりやすく・デジタルの力を活用・組合員との接点づくり・生涯利用をいかに高めるかなどの課題と方向性を確認できました。今後の分析や提言にも大いに期待をしています」などの感想が высказывались。

3月10日(木)、オンラインで開催し、会員生協役員、京都府災害ボランティアセンターなどから18人が参加しました。西島秀向会長理事が開会のあいさつをおこないました。
京都府危機管理部災害対策課計画・救助係・石田聖貴主事、同・岡野慎太郎主事から「防災・BCP(事業継続計画)の基礎を学ぶ」をテーマに、京都を取り巻く災害リスク、BCPとは何か?なぜBCPが必要なのか?新型コロナウイルス感染症について、BCPモデルプランについて(BCPチェックリスト)等の報告があり、意見交換しました。



京都府危機管理部・石田聖貴主事(右)、同・岡野慎太郎主事(左)

学習会「防災・BCP(事業継続計画)の基礎を学ぶ」開催

第41回

京都府生協連「京都の生協活動を豊か ～組織と事業のイノベーションによる協同組合

テーマ

～2022年度会員生協活動方針の交流～

4月12日(火)、オンラインと
コープ御所南会議室で開催し、
役員27人が参加しました。

西島秀向会長理事が開会の
あいさつをおこない、高取淳
専務理事がコーディネーター
をつとめました。

今回は各分野の会員生協か
ら次年度方針の重点課題や新
たな取組み等の報告を受け、
交流することを目的に開催し
ました。



コープ自然派京都・筆口智子理事

会員生協からの報告は、京

都生協・高倉通孝専務理事、
生協コープ自然派京都・筆口
智子理事、乙訓医療生協・上
西良太専務理事、全京都勤労
者共済生協・蛭田美幸専務理
事、立命館生協・風折昌樹常
務理事、京都大学生協・國見
伸行専務理事。資料提供いた
だいた龍谷大学生協・谷口一
宏専務理事、生協生活クラブ

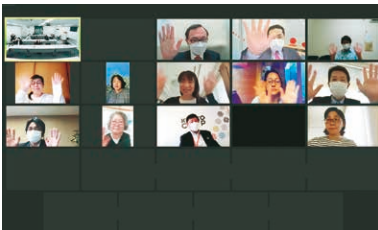


立命館生協・風折昌樹常務理事

京都エル・コープ・木下美紀
子常任理事からも、それぞれ
報告がありました。

参加者からは「勤労者共済
生協の社会的な取組みや、医
療生協の実態を知ること、
発見や連携の大切さがわかっ
た」「3つの地域生協のやり
とりでは、食や農業の課題の
とらえ方にそれぞれ特徴があ
るのがわかった」などの感想
が出されました。

(役職肩書は開催当時)



さまざまな生協からの報告がありました

学習会「プラスチック資源循 環促進法と京都府プラごみ削 減実行計画」開催

2月24日(火)、オンライン
で開催し、会員生協役員な
ど、18人が参加しました。

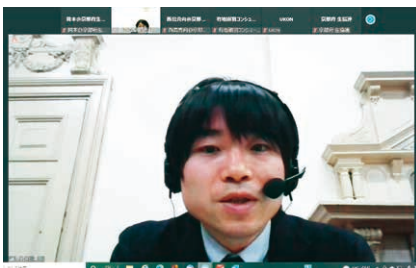
2022年4月に「プラス
チック資源循環促進法」が施
行され、製品の設計からプラ
スチック廃棄物の処理までに
関わるプラスチック資源循環
等の取組みを促進することに
なりました。

学習会は、京都府より法律
の概要と京都府のプラスチッ
クごみ削減実行計画、会員生
協等から取組みについての報
告をいただき、法律への理解
と今後の活動に活かすことを
目的に開催しました。

京都府生協連・西島秀向会
長理事の開会あいさつがあり、
「プラスチック資源循環促進法
と京都府プラごみ削減実行計
画」をテーマに、京都府民
環境部循環型社会推進課・東
川拓司副主査が法律の概要と
京都府の計画について報告。
つぎに、「京都生協のプラスチ
ック問題に関する考え方と今

後の取組み」をテーマに、京
都生協組織運営部両丹プロッ
ク・道下保夫ブロック長補佐
から報告があり、つづいて「今
日からは始めるプラスチック
ごみを減らすくらし」をテー
マに、NPO法人コンシューマ
ーズ京都・有地淑羽副理事長
から活動報告があり、全体で
意見交換しました。

参加者からは「事業者や行
政、消費者がそれぞれの役割
を果たすことが大切であるこ
とが理解できました」「現状と
これからの取組みがよく分か
る内容でした。国の規制では
なく、自主的な取組みで社会
全体を動かしていくという言
葉が印象的でした」などの感
想がありました。



京都府府民環境部・東川拓司副主査

京都労働者福祉協議会
第66回定期総会

5月26日(木)、ラポール京都(京都労働者総合会館)で開催されました。

京都労働者福祉協議会(京都労福協)は、「連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつ

くろう！」をスローガンに掲げ、行政や労働団体などの関係団体と連携し、勤労者福祉の向上などさまざまな活動を展開しています。提案された

「2021年度活動報告・会計報告等」「2022年度活動方針・予算」「役員体制」等、すべての議案が承認されました。また、今回の定期総会では、今後の活動に向けた「京都労福協のあり方」が提案されました。

京都府生協連では高取淳専務理事を理事に派出しています。

京都府食産業協会令和4年度定時総会・研修会

6月29日(水)、ホテルオークラ京都で開催されました。(一社)京都府食品産業協会・山本隆英会長が開会あい

7月8日(金)、オンライン

京都食育ネットワーク総会・情報交換会

で開催され、提案されたすべての議案について承認されました。つづいて開催された情報交換会では、京都華頂大学

食物栄養学科・ロシニョリ正代准教授を講師に招き、「私の経験した世界の食と学生に伝えたい想い」の講演のあと、意見交換しました。

同ネットワークは、食育にかんする普及・啓発、情報の収集・提供、食育支援活動の登録・提供などの取組みをおこなっており、行政、保健衛生、農林水産、教育・大学、

商工、消費者団体、報道関係などの幅広い分野から、88団体(2021年9月現在)が会員登録しています。

京都府生協連からは、九鬼隆一事務局長が幹事をつとめています

京都府食品産業協会令和4年度定時総会・研修会

6月29日(水)、ホテルオークラ京都で開催されました。(一社)京都府食品産業協会・山本隆英会長が開会あい

7月8日(金)、オンライン

京都食育ネットワーク総会・情報交換会

7月8日(金)、オンライン

京都食育ネットワーク総会・情報交換会

として発足しました。

京都府生協連は正会員として加盟、九鬼隆一事務局長が副代表をつとめています。

6月28日(火)、京都経済セ

ンターとオンラインを併用して開催されました。提案されたすべての議案が承認されました。

総会終了後は、「エネルギー高騰&夏・冬の電力需給逼迫への対策と脱炭素社会づくり」をテーマに全体で意見交換しました。

京と地球(アース)の共生府民会議総会

6月29日(水)、オンラインで開催され、提案されたすべての議案が議決されました。

当会議は、京都府生協連を含む46の団体で構成されています。京都府生協連からは、高取淳専務理事が理事をつとめています。

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

6月21日(火)、オンラインで開催され、すべての議案が承認されました。京都府生協連からは、高取淳専務理事が運営委員をつとめています。

認定NPO法人気候ネットワーク総会

おもな行事のお知らせ

2022年度京都府総合防災訓練

日時：9月4日(日)午前

会場：主会場、精華町立東光小学校他

※京都府生協連はJAグループとともに緊急物資搬送訓練に参加。

京都府協同組合

「第21回役員体験・交流学校」

主催：京都府協同組合連絡協議会

(JA京都中央会・森連・JF京都・生協連)

日時：9月8日(木)9:00~(予定)

会場：京都府漁協など

テーマ「京都の漁業を学ぶ・触れる」

京都消費者問題セミナー(予定)

日時：12月3日(土)13:30~

テーマ：2022年4月成年年齢が18歳に引き下げになってその後(仮題)

オンライン開催

発行：京都府生活協同組合連合会 〒604-0085 京都市中京区烏丸通一条上る時給屋町2008番地 コープ御所南ビル4階

TEL 075(259)1501

FAX 075(259)1501

URL http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail kyotofu-seikyoren@mac.seikyone.jp

発行：京都府生活協同組合連合会

TEL 075(259)1501

FAX 075(259)1501

URL http://www.kyotofu-seikyoren.com E-mail kyotofu-seikyoren@mac.seikyone.jp